

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「**真心**から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→ **1** デザインの一貫性：数秘術に見られる神の原則

→ **2** ダイナミックな多角的、立体構造：背後に神意〔偶然はない〕

→ **4** ^{まこと} 真の神の預言：成就の確かさ

→ **9** 同目的、同用途に用いられる特定の「地」：バビロン、ハルマゲドン

キリストの啓示 「この後に起こる事」 その2 **【3】 — 【5】 黙示録12章～19章**

【3】 11：19～14：20 信徒の霊の戦いの背景

☆天の神殿が開かれ、契約の箱出現、契約のゴールを示唆

☆地上で信徒たちが巻きこまれる戦いの背景、一真の性質を過去にさかのぼって描写—

12章

☆「**ひとりの女**」の正体、族長ヨセフの見た夢をヤコブがどのように捉えたかに鍵

☆産みの苦しみと痛み、イスラエルがメシヤによる贖いを待っている期間を描写

☆神に反逆するサタンとその手下（墮天使）、一御使いの三分の一— 天から地に放出

：5 キリストの昇天

：6 大艱難期への言及

＊神の民、霊的な避け所に導かれ、反キリストの恐怖の支配の間、悪魔の策略から安全

：7 御使いのかしら「ミカエル」

＊「**ダニエルの君**」、イスラエルを守る「**大いなる君**」 →ダニエル書10：21、12：1

＊竜が天界から投げ落とされた主要因はキリストの贖いの御働き

＊サタンの活動範囲は三年半、地に拘束

：9 「…**悪魔**とか、**サタン**とか呼ばれ…あの古い蛇は投げ落とされた…」（下線付加）：

＊ ‘διάβολος（ディアボロス）’、告発者、中傷する者

1. 竜 2. 蛇 3. 悪魔 4. サタン

＊サタン、天界から究極的に追放

：17 「**女の子孫の残りの者**」はキリストを信じる者たち

：18 天界から投げ出されたサタン、地上で汚れた三位一体を結成、神の民撲滅に乗り出す

13章

：1 海から出現した最初の獣に象徴されるのは「異邦人」か

＊11節の第二の獣は地から出現、ユダヤ人か

＊「**十本の角**」は十人の王たち

＊「**七つの頭**」は興亡する帝国、六番目がヨハネの時代を支配 →表2

：3 偽キリストの明らかな死とその後の復活

＊獣、驚くべき再生力を誇示

：4 この世、偽キリストを拝むようになる

：10 「**とりこになるべき者は、とりこにされて行く…ここに聖徒の忍耐と信仰がある**」：

＊悪に悪で報いてはならない

＊教会への迫害を神意として忍従 →エレミヤ書15：2

：11-14 「…**もう一匹の獣が地から上って来た…竜のようにものを言った**…」（下線付加）：

＊サタンと第一の獣と第二の獣、「汚れた三位一体」を結成

＊海からの第一の獣は竜（サタン）に服従、地からの第二の獣は海からの獣の権威下に

惑わされないため銘記すること

☆キリストが真の救い主であることの主要な証拠は奇蹟、不思議ではなく、預言の成就

聖書

：15「…その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし…」：
人工知能の時代

- ☆人工知能（AI）、ホログラム、顔認識術、読心術など高度な科学技術、
反キリスト体制下で大きく用いられることが予測
- ☆マーク・ビルツ、2019年にマイクロソフトが開発したAIを組み合わせたホログラム技術、
また、画像認識術で15節が実現可能であると語った → [インタビューサイト](#)と著書

- ：16「神のしるし」に対抗する「獣のしるし」、一獣帝国、カルトへの忠誠を象徴—
- ：17-18「…だれも、買うことも、売ることもできない…その数字は六百六十六である」：
 *すべての忠実な信徒に対する不売同盟
 * 6=人の数、一数字6は完全数7に達することのできない不足値—
 * 「その数字は」人の評価値、の意

14章

- ：4 霊的姦淫に陥らなかった信徒たち、栄光を受け、天のエルサレムで主とともにいる描写
- ：6 御使いによる、最後のダイナミックな宇宙的規模の宣教
 * 「永遠の福音」には8節の「バビロンの滅びの告知」も含まれる
 * 神に反逆する「地に住む人々」にとっては悪い知らせ
- ：8 この世の邪悪な組織崩壊の告知
 ①宗教の大本山、バビロン崩壊 17：1-18
 ②商業都市、バビロン崩壊 16：18-19、18章
 * 「不品行のぶどう酒」は、混ぜ物の福音
- ：10「…神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む…」（下線付加）：
 * 直に下る神の裁き
- ：11 15、16章の鉢の裁きの予告
 * 悪者は「絶滅」ではなく、「永久の苦しみに生きる」
- ：14-16 終末末期の収穫時の「羊とやぎの裁き」を予告
 * 地の穀物の刈り入れ：この世の終わり、キリスト再臨時の義人の集合への言及
- ：17-20 ハルマゲドンの戦いを予告
 * 地のぶどうの刈り集め：獣に従った者たちへの裁き、神の怒り
 * 「千六百スタディオン」はほぼパレスチナの北から南までの長さ、メギドからボツラまで
 * 神の怒りはキリストを拒む者たちにふりかかる

【4】15：1-16：21 神の怒りの七つの鉢

☆このビジョンは最後の災いの到来の先触れではなく、最後の災害の効果を歓喜
二つのビジョン

- ①キリストを告白し、大変な苦難を経て勝利の凱旋をした者たちの描写
- ②天の神殿から、七人の御使いが災いの鉢を持って現れる描写

- ：2-4 モーセの歌、子羊の歌はともに敵からの解放、「贖い」の歌
- ：5-8 「あかしの幕屋」は、イスラエルの民が荒野を放浪したとき、神が住まわれた場所
 * 神の御許から遣わされた御使い、「七つの鉢」の裁きを下す
 * ヘブル語聖書で罪人に対する神の裁きの手段は「杯」、頻繁に登場

聖所に入れない理由

☆もはや執り成しの「とき」は過ぎ、神の裁きが完成しようとしているから

16章

- ☆大艱難期に地の住民に下る神の裁き
- ：2 鉢の裁きは特定の人々、一獣の王国— の上に、主の再臨直前に下る
- ：3 第二の鉢の災い、海全体に広がる
- ：4-7 第三の鉢の災いで飲料水が奪われ、犯罪に相応する懲らしめが犯罪者に下る
- ：8-9 第四の鉢の災い、すでに水不足で枯渇している地に、灼熱の太陽をもたらす
 * 「人間原理」を根底から揺るがす神の裁き

聖書

：10-11 第五の鉢の災い、反キリストの帝国（全世界）に暗やみをもたらす

＊この時点で、発電を起こす水は枯渇、発電など文明の力への依存は不可

＊伴われる霊的「暗やみ」、失われる「真理」

：12-16 第六の鉢の災い

ユーフラテス川

☆ユーフラテス川の枯渇は、全能の神の偉大なる戦いの日に備えるため

☆悪霊、主に反逆するため、メギドの谷に世界中の反逆分子を集める

☆ヨハネ、大河ユーフラテスの水が涸れ、東方からの軍隊に道が備えられることを預言

☆2015 年、メソポタミア溪谷全体で大規模な干ばつが起こった → [参考サイト](#)、[ユーチューブ](#)

☆今日起こっている気候変動、ユーフラテス川の完全な枯渇に向かっている

＊何世紀も続いた神とサタンの対決のクライマックス

＊主の再臨は非常に近い、霊的備えをする必要

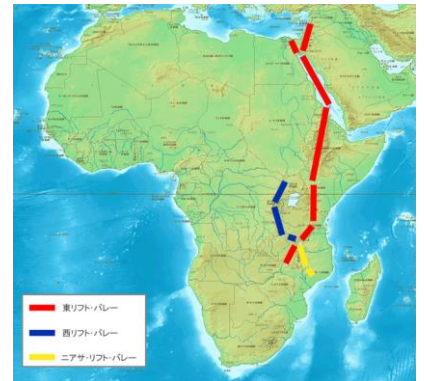
＊「ハルマゲドン」、神が悪を最終的に打ち負かされる場所を象徴

：17-21 サタン、—「**空中の権威を持つ支配者**」— の終局

＊「**あの大きな都**」は「墮落したエルサレム」

＊オリーブ山の下を走る大地溝帯

＊神冒瀆に対する刑罰は石打ち、「電」



【5】17：1-19：21 この世の終わりと主の再臨

☆ニムロデ、バビロンに起因する二つの悪、艱難期に崩壊

1. 17章 偽りの宗教（バビロンの偶像崇拜、宗教組織） → 世界統一宗教の崩壊

2. 18章 専制政治（商業的、政治的バビロン） → 世界統一政府の崩壊

17章

：1「**大淫婦**」は「**大きな都**」、「**大バビロン**」 → 18節、5節

＊ここでは、偶像崇拜に陥った「教会」

：3「**緋色の獣**」は、13章で海から上って来た獣

：4「**憎むべきもの**」は、偶像崇拜

＊キリストが再臨されるまでは、教会にこの世を支配することは意図されていない

＊どんな教理であれ、神が完成させられた御言葉『聖書』に加えられたものはすべて、冒瀆

＊わざによる救いを説くことは神の栄光を否定することで、冒瀆

：7-18

☆ヨハネの驚きはこのビジョンの一部を知っていることを示唆

＊13章の獣と同じ獣が再度、登場

獣の特徴

1. 神を冒瀆する名 2. 七つの頭 3. 十本の角 4. 大淫婦を背に乗せている

5. 昔いたが今おらず、やがてアビスからやって来るが、ついには滅びる

☆象徴的に用いられているすべての獣は①王 あるいは、②神の御旨に反逆する王国

☆女はローマを中心とする偶像崇拜的な神に反逆する文明、世界的に影響のある組織を描写

＊獣、最初はローマに本拠地を置く

＊大淫婦殺害後、獣、本部をバビロンの実際の都に移す

☆9-14節の七人の異邦人諸国の王たち → [ダニエル書2章](#)

＊第八番目の帝国は、かつてイスラエルを支配した偶像崇拜の七王国すべてを包括する極致

☆ヨハネが見た獣は、人類史における最後の最も強力な帝国の悪魔的支配者、反キリスト

☆ダニエルのビジョン、第四の獣（古代ローマ帝国）の十の足の指はキリスト再臨時に存在する、古代ローマ帝国から派生した十の王国、復興ローマ帝国 → [ダニエル書7：7](#)

＊王たち、世界的な力を獣との提携で得る

聖書

表2	帝国、王たちの興亡		黙示録17：10－12					
登場順	1	2	3	4	5	6	7	8
名	エジプト	アッシリヤ	バビロン	メデヤ・ペルシャ	ギリシャ	ローマ	オスマン・トルコ	復興ローマ 反キリスト
→8. 復興ローマの十人の王たち「十の角」は、反キリスト体制を支持する欧州連合か？								

：16－17 反キリスト、背教の世界統一教会を利用した後、滅ぼす

：18「あなたが見たあの女は、地上の王たちを支配する大きな都のことです」（下線付加）：

＊ヨハネの時代、ローマ

＊今日、単独の主権国民の地位にある独立国家はバチカン市国

18章

二つのバビロン

☆用語「この後」（1節）、宗教組織バビロン崩壊の後、商業、政治組織バビロン崩壊を明示

：4「この女から離れなさい」は、分離の命令、邪悪な組織との絶縁を勧告

バビロン崩壊

☆邪悪な都、組織、獣の体制下で利潤を得ていた王たち、一瞬のうちに滅びる

☆神不在のこの世の諸悪、すべての悪の組織、崩壊する

☆輸送機関、金融機関、携帯、コンピューター、電気システムもすべて、機能を停止

：21「大きな都バビロン」

1. 再建された都バビロン

2. 罪深い商業的、社会的、政治的組織

19章

☆16：15は携挙の近づきを警告、キリスト者、再臨の主に空中で迎えられる

その直前、主にあって死んでいた聖徒たちや旧約の聖徒たちがまず甦る

☆天での小羊の結婚式

☆結婚式の後、花嫁は花婿キリストとともにハルマゲドンの戦いに向かう

小羊の婚宴

1. 婚約は教会時代に、地上で起こる

2. 結婚式は、花嫁（教会）の携挙の後、天で行われる

3. 地上で始まった婚宴のさ中、花婿キリスト、花嫁を伴って登場

イエスのあかしは預言の霊

☆キリストの証しこそ、預言の真髄

☆聖霊がキリストの証しを解釈

☆全聖書はキリストの証し

主の再臨

☆公の出来事

☆大艱難の直後

☆信徒の贖いの完成、ユダヤ人の悔恨の嘆きと救い、神に反逆した者たちの絶望の嘆き

：14「天にある軍勢」は天のエルサレムのすべての住民（御使い、教会、旧約時代の聖徒ら）

＊戦いの武器は「神の言葉」、ハルマゲドンの戦いでの勝利を宣言

ハルマゲドンの戦い

☆神に真っ向から対決、敗北すると知って、敵、勢力を結集

☆キリストの再臨の前提条件は、イスラエルの残りの者による哀願 →ホセア書5：15－6：3

☆反キリストと偽預言者は生きたまま、文字通り、地獄にだれよりも先に投げ入れられる